

教關係のものだから、前者は今の庫車であるとしても、後者は貴霜と見て差支ないと主張する人があるかも知れないが、然も後者に前者と同じやうに Sulmi (Solmi) といふ地名も見え、そうしてそれが祈願文の斷簡であることを思へば、この Kusān だけが時代も場所もかけ離れた貴霜と見られねばならぬ理由は無からう。また貴霜國に Suvarṇapūspa といふ王のあつたことは從來知られてゐないことであるから、この點からも第二の佛教經典に見える Kusān をミューラー氏に従つて貴霜と見るよりも、これを龜茲即ち元代の記録に見える曲先の名に當るものと見るのが適當と考へる。

以上述べた余の考に對しては或は余がこれらの文書の時代をあまりに新しく見ることを非難する人があるかも知れない。實に余はこゝに引用した摩尼教關係の文書に見える地名を、すべて蒙古の崛起時代から知られた地名に該當せしめたのであるから、余がこれをこの時代の文書と解してゐるかの如くに思はれるのも無理ではない。併しながらそれは必ずしも當らないことであつて、記録にはこれらの名が蒙古時代から現はれるとしても、それは蒙古語で稱した名が、その政治的勢力の發展に伴つて史上に記されるやうになつて來たが爲で、その以前には彼等はやはり同様にこれらの地を呼んで居つたとしても、漢史上の地名は漢人が漢人の呼び方に従つて書いたものであるから、トルコ人や蒙古人が如何にこれを稱して居つたとしても、その稱呼が漢人の稱呼と同一でない限り、その中に記さるべき理由はない。だから今このウイグル文書の中に記されて居る地名が蒙古時代の記録に見える地名と一致するからといふて、直ちにこの文書が蒙古時代のものであると斷ぜねばならぬ理由はない。却つてこれ等の文書に見える地名は、後の蒙古時代の記録に見える同一の地名の先蹤を示して居るものと見て差支ないのである。それで